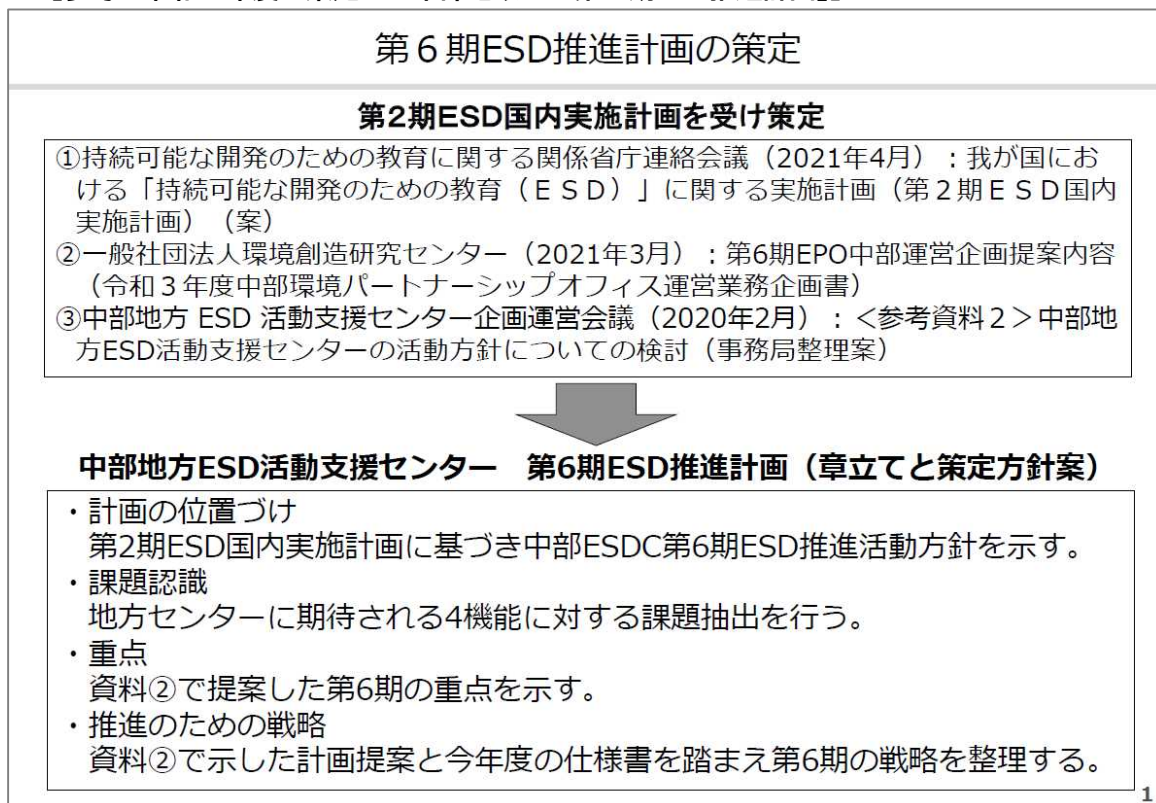


6 中部地方 ESD 活動支援センター運営業務

(1) 中部地方 ESD 活動支援センターの運営・推進

- 令和3年度に策定した中部地域の「第6期 ESD 推進計画」をもとに、中部地方 ESD 活動支援センターの業務内容等を検討し、ESD/EP0 運営委員会（第1回会議）に諮問のうえ、関係する委員からの開催地域、連携機関、協働方法等の助言を踏まえて業務実施計画に反映した。

【参考：令和3年度に策定した中部地域の「第6期 ESD 推進計画」】



1

(2) ESD 活動に関するネットワークの構築

ア ESD/SDGs 推進ネットワーク地域フォーラムの開催

①日時

- 2022 年 12 月 5 日（月）13：00～15：30

②会場

- 開催方法：ハイブリッド
 - 会場：ウインクあいち 906 会議室（名古屋市中村区名駅 4 丁目 4-38）
 - オンライン：zoom

③主催等

- 主催：中部地方 ESD 活動支援センター

④出席者

- 26 名（会場参加 13 名、オンライン参加 13 名）

⑤プログラム

- 挨拶 環境省中部地方環境事務所
- 参加者自己紹介
- 基調講演
「ESD の今日的意義 これからの社会を担う人づくり」
愛知教育大学 教授 大鹿 聖公 氏
- 現状報告
「環境省 EPO 中部・中部地方 ESD 活動支援センターの取組」
中部地方 ESD 活動支援センター責任者 原 理史
- 参加者意見交換

「地域 ESD の現状と課題」

コーディネーター：中部 ESD 拠点協議会事務局長 中部大学国際 ESD・SDGs センター准教授
古澤 礼太 氏



⑥ポスターの制作

- フォーラムのポスター／チラシを制作し、開催案内とともに、中部エリアの地域 ESD 拠点へ郵送及びメールで送付した。

【制作したポスター／チラシ】

オンライン参加も可能です

中部地方ESD推進ネットワークフォーラム

ESD推進ネットワーク活動の拡充を図るため
中部地方の地域ESD拠点団体の活動交流と情報共有のための意見交換を行います

日時

2022年12月5日（月）13：00～15：30

場所

ウインクあいち 906会議室（名古屋市中村区名駅4丁目4-38）

対象

中部地方の地域ESD拠点団体（19団体／2022年10月現在）

プログラム（予定）

- 挨拶 環境省中部地方環境事務所
- 参加者自己紹介
- 基調講演
「ESDの今日的意義
～これからの社会を担う人づくり」仮題
大鹿聖公 愛知教育大学教授
- 現状報告
「環境省EPO中部・中部地方ESD活動支援
センターの取組」
原 理史 中部地方ESD活動支援センター責任者
- 参加者意見交換
「地域ESDの現状と課題」
コーディネーター
古澤礼太 中部ESD拠点協議会（RCE Chubu）事務局長
中部大学国際ESD・SDGsセンター准教授

申込方法

締切：10月31日（月）

- 裏面の参加票を送付いただくか、こちらの参加申込フォームから入力をお願いいたします。
- 現地参加者には交通費（各拠点1名様分）を支給いたします。
- zoom の参加URL は開催日前日までに送ります。



問合せ

中部地方ESD活動支援センター
（環境省 EPO中部）
TEL：052-218-9073
FAX：052-218-8606
E-mail：office@chubuesdcenter.jp





中部地方 ESD 活動支援センター
Education for Sustainable Development

イ SDGs 学生サミットの開催

①イベント名

- SDGs 学生サミット

②日時

- 2023 年 2 月 4 日（土）13：00～17：00

③開催方法

- 開催方法：オンライン（zoom、YouTube 配信）

④主催等

- 主催：中部地方 ESD 活動支援センター
- 協力：中部大学中部高等学術研究所、国際 GIS センター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

⑤参加者

- 116 名
 - zoom76（登壇者・事務局含む）
 - YouTube 視聴 40（ユニーク視聴者数）

⑥プログラム

○ 挨拶

環境省中部地方環境事務所

名古屋市立大学 副学長 教授 伊藤 恭彦

○ 《第 1 部》団体発表 若者にとっての SDGs ～学習活動等の取組紹介や展望

中部地方に所在する大学等 の学生グループ 7 団体

○ 《第 2 部》話題提供：地域の SDGs 取組～自治体の SDGs の取組について

（SDGs 未来都市 3 自治体）福井県鯖江市、三重県いなべ市、長野県大町市

○ 《参考 インプット》「見える化プログラム」分析と「地域 SDGs データセット」

○ 《第 3 部》ディスカッション：ローカル SDGs のために。すべきこと、できること！

ファシリテーター：EPO 中部・中部地方 ESD 活動支援センター



⑦開催案内チラシ

中部地方ESD/SDGs推進ネットワーク地域フォーラム



SDGs 学生サミット

2023年 2月4日(土) 開催

13:00~17:00・オンライン

プログラム 予定

第1部 団体発表
若者にとってのSDGs
～学習活動等の取組紹介や展望～

中部地方に所在する
大学等の学生・ユースグループが
SDGsの取組・活動について発表を行います。

第2部 話題提供
地域のSDGsの取組
～自治体のSDGsの取組について～

中部地方のSDGs未来都市に選定されている
基礎自治体の担当者などから
施策や取組をご紹介します。

第3部 ディスカッション
ローカルSDGs達成のためにすべきこと、できること！

進行 原 理史(中部地方ESD活動支援センター)

総括 伊藤 恭彦氏(名古屋市立大学副学長、ESD/EPO運営委員会 座長)

一般参加 申込不要

- YouTubeライブ配信をご視聴いただけます。
- 視聴URLはWebページに掲載いたします。

Webページ▶



ハブとなる中部大学中部高等学術研究所
デジタルアースルーム▶



主催 ▶ 中部地方ESD活動支援センター(環境省EPO中部)

協力 ▶ 中部大学中部高等学術研究所、国際GISセンター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点



中部地方ESD活動支援センター
Education for Sustainable Development

ウ 地域ESD拠点等のESD活動の支援

- 拠点登録済み団体が主催するイベント等について、中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト等で下記の通り、広報協力を行った。

【中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイトに掲載した登録団体への広報協力記事】

地域ESD拠点トピック	
2023.02.03 地域ESD拠点トピック いのちをつなぐ水と流域・地球市民対話プロジェクト「地域対話フォーラム2023 in Aichi」を開催 開催日時：2023年2月23日（木・祝）10：00～17：00	
2023.01.13 地域ESD拠点トピック SDGsの達成に向けた日本の祭りと生物多様性保全プロジェクト 第11回ワークショップを開催 開催日時：2023年1月28日（土）8：00～16：30 申込締切：2023年1月26日（木）	
2022.12.23 イベント＆ニュース 地域ESD拠点トピック 認定「体験の機会場の場」加山興業で「連携した環境教育の実現に向けて」をテーマに研修を開催 開催日時：2023年1月20日（金）10：00～16：30 開催場所：加山興業株式会社 豊川本社（愛知県豊川市）※中部地域のESD拠点団体	
2022.12.12 地域ESD拠点トピック SDGsの達成に向けた日本の祭りと生物多様性保全プロジェクト 第10回ワークショップ『岐阜県神戸町の山王まつりから考える大森の過去と未来』を開催 開催日時：2022年12月17日（土）10：00～15：30 申込締切：12月14日（水）※定員に達し次第、受付を終了	
2022.11.14 地域ESD拠点トピック 「SDGsの達成に向けた日本の祭りと生物多様性保全プロジェクト」美濃和紙と里山のまちづくりワークショップを開催 開催日時：2022年11月20日（日）10：00～15：00 申込締切：2022年11月16日（水）※定員に達し次第、受付終了	
2022.11.04 地域ESD拠点トピック 「SDGs推進フォーラム in 飛騨高山」が開催されました	
2022.10.26 地域ESD拠点トピック 第2回SDGs WEEKs《七番SDGsセミナー》を開催 ▼第2回SDGs WEEKs開催期間▼ 2022年10月21日（金）～11月6日（日）	
2022.09.30 地域ESD拠点トピック SDGsの達成に向けた日本の祭りと生物多様性保全プロジェクト 第8回ワークショップ「鯨船祭りから考える生物文化多様性」を開催 開催日時：2022年10月15日（土）10：30～15：30 申込締切：2022年10月8日（土）	2022.09.13 地域ESD拠点トピック 「SDGsの達成に向けた日本の祭りと生物多様性保全プロジェクト」第7回ワークショップ「瀬江須成祭の蔭（ヨシ）から考える川文化と自然環境」を開催 開催日時：2022年10月1日（土）10：00～15：30 申込締切：2022年9月26日（月）※定員に達し次第、受付終了
	2022.08.19 地域ESD拠点トピック 「SDGsの達成に向けた日本の祭りと生物多様性保全プロジェクト」第6回ワークショップ「知多半島・豊浜崎まつりから考える森里川海」を開催 開催日時：2022年9月11日（日）9：30～15：00 申込締切：2022年9月3日（土）
	2022.07.10 中部の拠点登録団体 中部エリアの「地域ESD活動推進拠点（地域ESD拠点）」について 中部ブロックでは19団体が地域ESD拠点に登録されています。2022年12月、新たに「ななおSDGsスイッチ」さんが登録団体になりました。
	2022.06.16 地域ESD拠点トピック 中部サステナ政策塾（第7期、2022年度）塾生を募集 《応募条件》 ・年齢が39歳以下であること ・全講座のうち7割以上参加できること（オンライン補講あり）
	2022.06.14 地域ESD拠点トピック SDGsの達成に向けた日本の祭りと生物多様性保全プロジェクト 第5回ワークショップ「亀崎潮干祭りから考える三河湾のあさり」を開催 開催日時：2022年7月2日（土）10：00～15：00 申込締切：2022年6月29日（水）※定員に達し次第、受付終了
	2022.05.19 地域ESD拠点トピック SDGsシンポジウム 中部の「国連人間環境会議から50年」を開催 開催日時：2022年6月5日（日）13：30～17：00 開催場所：名古屋市公会堂 第7集会室（名古屋市昭和区）
	2022.05.09 地域ESD拠点トピック SDGsまちづくりプロジェクトin錦二丁目REPORT（2020-2021）を作成しました！ なごや環境大学と錦二丁目まちづくり団体、企業、大学等の多様な主体と、地域の課題解決とSDGs達成に向けた取組を進めてきた2年間の歩みを紹介しています。
	2022.04.21 地域ESD拠点トピック 企業向けSDGsオンラインセミナー「消費者とともに歩く企業」を開催 開催日程：5/27、6/24、7/29、8/26、9/30 [各日14:00-15:00] 申込期限：開催日の3日前

(3) 全国センター及び地方センターとの連携

ア 全国 ESD センターとの連携

① ESD 拠点の登録審査に伴う情報提供

- 地域 ESD 拠点の申請・登録にあたり、全国 ESD センターからの照会対応等があった際には、適宜、情報提供を実施した。
- 今期までに中部エリアでは、新たな地域 ESD 拠点登録の申請が 2 件あり、2022 年 12 月末時点で計 20 団体が地域 ESD 拠点に登録されている。

【2022 年度に新規登録された中部エリアの地域 ESD 拠点】

団体名	県	申請日	登録日
加山興業株式会社	愛知県	2022 年 6 月 13 日	2022 年 6 月 21 日
なお SDGs スイッチ	石川県	2022 年 12 月 14 日	2022 年 12 月 27 日

② 年次アンケートの実施支援

- 2022 年 4 月に、全国センターが地域 ESD 拠点を対象に年次アンケートを実施するにあたり、適宜、中部エリアの地域 ESD 拠点団体に対し、協力依頼等を行った。

③ 全国センター主催会議等への出席、資料提供等

- 全国 ESD センターから招聘された全ての会議等に参加し、資料提供などを行った。

区分	回/開催日	実施内容
企画運営委員会	第 1 回 6 月 23 日	(1) ESD 活動支援センター 2021 年度事業報告について (2) ESD 活動支援センター 2022 年度事業について
	第 2 回 3 月 2 日	1. ESD 活動支援センターの本年度主要事業について(報告) 2. 気候変動を切り口とした ESD の今後の進め方について ※マトリクスの検討 3. 2023 年度 ESD 活動支援センター活動計画案について
全国・地方連絡会	第 1 回 6 月 15 日	【議題1】ESD をめぐる最近の動向、地域脱炭素に向けた人材育成について 【議題2】共有:全国センターの事業について 【議題3】共有:各センターの事業予定について 【議題4】全国センター事業:拠点関係、情報関係 【議題5】気候変動教育に関する共有・議論
	第 2 回 1 月 23 日	(1)開会 (2)2023 年度環境省・文部科学省の施策の方向性について (3)気候変動教育コンセプトペーパー最終案について (4)次年度以降のセンター・ネットワークの活動について (5)2022 年度「ESD for 2030 学び合いプロジェクト」報告(地方センター)と全国フォーラム報告(全国センター) (6)各センターの活動を記載したマトリクスの共有・議論 (7)事務連絡
全国フォーラム	12 月 10 日	- ポスターセッション&ネットワーキングタイム - 開会挨拶(文部科学省、環境省) - 基調報告:文部科学省 - 基調報告:環境省 - セッション1:「気候変動を切り口とした ESD の推進」 - セッション 2:「気候変動や脱炭素をテーマにした地域事例紹介」 - 全体総括:「気候変動時代の ESD をどう進め、広げるか」

区分	回/開催日	実施内容
ESD 全国団体 意見交換会	9 月 12 日 (ハイブリッド)	趣旨説明・ESD ネットワークの動き(ESD 活動支援センター) 【第一部】参加団体による活動紹介(各団体 3 分×約 20 団体) 【第二部】気候変動教育の展開に向けて ・ 趣旨・コミュニケーションペーパー素案説明 ・ 脱炭素を始めとする「経済社会のリデザイン」と人材育成(環境省) ・ 気候変動教育に関する取組報告・情報提供 ・ 意見交換 ・ 環境省・文部科学省よりコメント

④後援申請対応

- 中部地方 ESD 活動支援センターの後援名義使用について、下記の事務局から全国センターに申請があり、全国センターからの照会対応を行った。

申請主体	承認日	申請行事		
		名称	開催日	場所／方法
公益財団法人子ども教育支援財団 *	5 月 18 日	第 14 回環境教育ポスターコンクール	2022 年 8 月 23 日～ 2023 年 3 月 31 日	国内公共施設等
公益財団法人日本極地研究振興会 *	7 月 13 日	南極・北極 SDGs 探究学習コンテスト	2022 年 9 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日	オンライン
名古屋市環境局環境企画課	7 月 27 日	SDGs まちづくり推進事業	2022 年 9 月 22 日～ 2023 年 3 月 31 日	オンライン及び 各地域等
第 12 回日本ジオパーク全国大会白山手取川大会実行委員会	10 月 5 日	第 12 回日本ジオパーク全国大会 白山手取川大会	2022 年 10 月 21 日～10 月 23 日	オンライン及び 地域施設等
北陸 ESD 推進コンソーシアム	11 月 11 日	2022 年度北陸 ESD 推進 コンソーシアム成果報告会	2023 年 2 月 11 日	オンライン
北陸 ESD 推進コンソーシアム	11 月 11 日	2022 年度石川県 SDGs・ESD 児童生徒学習活動交流会	2023 年 1 月 21 日	オンライン
北陸 ESD 推進コンソーシアム	11 月 11 日	2022 年度北陸ユネスコスクール 実践交流会	2022 年 12 月 3 日	オンライン
東北地方 ESD 活動支援センター *	12 月 20 日	東北 ESD/SDGs フォーラム 2022 みちのく SDGs～スポーツ・音楽・伝統 工芸から SDGs を紐解く～	2023 年 1 月 21 日	オンライン
公益財団法人五井平和財団	12 月 27 日	令和 4 年度ローカル SDGs キャンパス・ミーティング	2023 年 3 月 4 日 ～3 月 18 日	地域施設等
信州 ESD コンソーシアム	12 月 27 日	令和 4 年度信州 ESD/SDGs 成果発 表&交流会～ユネスコエコパークと共 に学ぼう～	2023 年 2 月 3 日 ～2 月 4 日	オンライン
公益財団法人五井平和財団	12 月 27 日	令和 4 年度ローカル SDGs キャンパス・ミーティング	2023 年 3 月 4 日 ～3 月 18 日	地域施設等

*：全ての地方センターに後援申請があった催事

(4) ジオパーク等の活用（ESD ダイアログの開催）

①イベント名

- 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク ESD ダイアログ 2022 ～自然資産を教材とした SDGs 教育とは～

②日時

- 1 日目：ESD ダイアログ
2022 年 11 月 26 日（土）13：30～16：40
- 2 日目：エクスカージョン
2022 年 11 月 27 日（日）8：30～14：30



③開催方法・会場

- 1 日目 ESD ダイアログの開催方法：ハイブリッド
 - 会場：勝山市教育会館（福井県勝山市）
 - オンライン：zoom
- 2 日目エクスカージョンの視察地：恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク内

④主催等

- 主催：中部地方 ESD 活動支援センター
- 後援：勝山市、恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会、勝山市教育委員会

⑤参加者

- 1 日目：ESD ダイアログ参加 53 名
 - 会場 42（登壇者・事務局・関係者含む）
 - YouTube 視聴 11（ライブ配信時のユニーク視聴者数）
- 2 日目：エクスカージョン参加 16 名

⑥ESD ダイアログのプログラム

- ごあいさつ 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会 会長 水上 実喜夫 氏
環境省 中部地方環境事務所
- はじめに 環境省 白山自然保護官事務所 染谷 祐太郎氏
- 第 1 部・基調報告
恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会 町 澄秋 氏
白山手取川ジオパーク推進協議会 普照 豊 氏
- 第 2 部・事例報告
勝山市立平泉寺小学校、勝山市立村岡（むろこ）小学校
- パネルディスカッション「自然資産を教材とした SDGs 教育を考える」
《パネリスト》
白山手取川ジオパーク推進協議会
南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク協議会
一般社団法人立山黒部ジオパーク協会
恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会
勝山市教育委員会
《コメンテーター》水谷 瑞希 氏（信州大学教育学部助教）
《コーディネーター》原 理史（中部地方 ESD 活動支援センター）

⑦開催案内チラシ

恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク ESDダイアログ2022

～自然資産を教材としたSDGs教育とは～

悠久の地球を体感できるジオパーク。生物と文化の多様性を育む大地を、持続可能性を支える自然の基（もと）として捉え、ESD教材としての活用を考えるダイアログを開催します。
様々なESD学習活動に携わる皆様はもちろん、自然やSDGsにご興味のある方、参加をお待ちしています。



恐竜渓谷ふくい
勝山ジオパーク
DINOSAUR VALLEY FUKUI
KATSUYAMA GEOPARK



残雪の白山と九頭竜川



恐竜化石発掘現場



大矢谷白山神社の巨大岩塊(冬)

写真提供：恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会

日程 2022年11月26日(土)～27日(日)

場所 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク

1日目 ESDダイアログ

★YouTubeライブ配信、後日公開予定あり

日時：11月26日(土) 13：30～16：40
会場：勝山市教育会館 1階 ホール
(福井県勝山市元町1丁目5番6号)

2日目 エクスカーション

日時：11月27日(日) 8：30～14：30
場所：恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク
【出発】勝山ニューホテル
【解散】勝山駅経由・勝山市役所
★2日目の行程(バスで移動)は裏面を参照ください。

2日目 エクスカーション

日時：11月27日(日) 8：30～14：30
場所：恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク
【出発】勝山ニューホテル
【解散】勝山駅経由・勝山市役所
★2日目の行程(バスで移動)は裏面を参照ください。

プログラム(1日目)

挨拶 水上 実喜夫(恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会 会長)

挨拶 環境省 中部地方環境事務所

はじめに 染谷 祐太郎(環境省 白山自然保護官事務所)

第1部 基調報告

- 町 澄秋(恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会)
- 日比野 剛(白山手取川ジオパーク推進協議会)

第2部 事例報告

- 勝山市立平泉寺小学校
- 勝山市立村岡(むろこ)小学校

第3部 自然資産を教材としたSDGs教育を考える

パネルディスカッション

《パネリスト》ジオパーク関係者、勝山市教育委員会 予定

《コメンテーター》水谷 瑞希(信州大学教育学部助教)

《コーディネーター》原 理史(中部地方ESD活動支援センター)

申込締切
11月15日(火)必着

参加費

★参加は無料です。
★宿泊の手配が可能です(宿泊費は自己負担)。
★事務局が手配する宿泊施設については裏面を参照ください。

申込方法

★参加申込フォームからお申し込みください。 [申込フォーム▶](#)

問合せ(事務局)

中部地方ESD活動支援センター
(環境省 EPO中部)
TEL：052-218-8605 [EPO中部HP▶](#)

⚠電話による申込は受け付けておりません。

恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークESDダイアログ2022 ～自然資産を教材としたSDGs教育とは～

1日目 ESDダイアログ

★YouTubeライブ配信、後日公開予定あり

日時：11月26日(土) 13:30～16:40
会場：勝山市教育会館 1階 ホール

プログラム

挨拶 水上 実喜夫(恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会 会長)

挨拶 環境省 中部地方環境事務所

はじめに 「自然資産とは～自然公園・エコパーク・ジオパーク」
染谷 祐太郎(環境省 白山自然保護官事務所)

第1部 基調報告

報告 「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークとESD」
町 澄秋(恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会)

報告 「第12回日本ジオパーク全国大会白山手取川大会分科会
(教育WG)の成果」
日比野 剛(白山手取川ジオパーク推進協議会)

第2部 事例報告

報告 「勝山市立平泉寺小学校のESD活動」

報告 「勝山市立村岡(むろこ)小学校のESD活動」

第3部 自然資産を教材としたSDGs教育を考える

パネルディスカッション

《パネリスト》 予定

- 白山手取川ジオパーク推進協議会
- 南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク協議会
- 一般社団法人立山黒部ジオパーク協会
- 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会
- 勝山市教育委員会

《コメンテーター》 水谷 瑞希(信州大学教育学部助教)

《コーディネーター》 原 理史(中部地方ESD活動支援センター)

1日目の会場：勝山市教育会館

〒911-0804 福井県勝山市元町1丁目5番6号
<https://www.city.katsuyama.fukui.jp/soshiki/53/127.html>
○えちぜん鉄道「勝山駅」から徒歩約16分(車で約4分)
○勝山市コミュニティバス(ぐるりん中部方面)
「勝山駅前」乗車 → 「サンブラザ前」下車、徒歩約3分

事務局が手配する宿泊施設：勝山ニューホテル

〒911-0811 福井県勝山市片瀬町2-114
<https://www.rio-hotels.co.jp/katsuyama/>
○えちぜん鉄道「勝山駅」から車で約10分
一泊朝食付一人部屋：12,000円(税込み)
※キャンセル料：3日前～前日30%、当日100%

- 宿泊申込者・2日目参加者の方へは、開催日1週間前に開催案内を送付します。届かない場合は、恐れ入りますが事務局まで連絡をお願いいたします。
- 参加申込をした後で宿泊キャンセル、不参加となった場合には、必ず事務局へ連絡してください。
- 宿泊費は、当日、宿泊施設へ各自での支払いとなります。

2日目 エクスカーション

日時：11月27日(日) 8:30～14:30
場所：恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク
ジオサイト

行程 ★バスで移動(自家用車の利用)も可。

勝山ニューホテル【出発】

● 平泉寺白山神社
平泉寺小学校による未来の語り部の舞台(見学)

● 大矢谷白山神社
巨大岩塊(見学)

● ミルク工房奥越前
散在する巨岩を観察

● まちなかプチジオツアー
勝山城址、七里壁、大清水などまちなかを散策

● 旬菜食祭 お食事処 花月楼【昼食】

● 福井県立恐竜博物館

えちぜん鉄道《勝山駅》経由

勝山市役所【解散】

※本催事についての問合せは 主催事務局 へお願いいたします。



(5) 域内外の多様な主体の連携促進、交流機会の提供

ア 年間活動計画の作成

- 中部エリアの「ESD for 2030 学び合いプロジェクト」企画にあたり、SDGs 社会教育研究会ワーキング、学び合いの場（全2回）、実践活動（全1回）の「活動計画」を作成した。

【作成した活動計画】

多様な主体の連携促進、交流機会提供 計画案 220621

テーマ：地域づくりのための気候変動社会教育

環境省EPO中部・中部地方ESD活動支援センター

SDGs社会教育研究会イベントとワーキンググループ

テーマ：地域づくりのための気候変動社会教育

全国ESDフォーラム分科会活動（公開、中部地方及びその他の地域から参加者募集）

- 「学びあいの場」の開催（2回、オンライン）
勉強会、意見交換会となる学びあいの場を設営、開催（話題提供とディスカッション）
話題提供者は気候変動教育における内外の専門家、実践者、事例紹介等を想定
- 実践活動（1回、リアル）
気候変動教育を地域づくりに活かすSDGs社会教育実践セミナーの開催。
水上委員の連携活動実績を活かした福井県内におけるワークショップの実施を想定。
- 全国ESDフォーラムへの参加（1回、現場での開催想定/全国センター主催）

SDGs社会教育研究会ワーキング（非公開、専門家コメンタリー・WGによる）

- 研究ワーキングの開催（3回、リアル）
第1回研究ワーキング：気候変動教育をテーマとした全体計画とワークブック改善の方向性
第2回研究ワーキング：学びあいの場実施の振り返り、実践活動の計画
第3回研究ワーキング：全国フォーラム振り返り、ワークブックへの反映

SDGs社会教育研究会WG、敬称略

専門家コメンタリー

- 古澤礼太 中部大学国際ESD/SDGsセンター准教授 中部ESD拠点協議会事務局長
- 水上聡子 EPO中部運営委員 アルマス・バイオコスモス研究所代表
- 原 勇人 EPO中部運営委員 一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま（PECとやま）事務局長
- 原 理史 中部地方ESD活動支援センター 中部大学国際ESD/SDGsセンター研究員（非常勤）
- オブザーバー 原 慎一郎 環境省中部地方環境事務所 担当官
- ゲスト（3回目のみ） 佐藤真久 東京都市大教授（案）
- 事務局 清水三郎 中部地方環境パートナーシップオフィス 統括

SDGs社会教育「学びあいの場」開催イメージ（2回）

- オンライン開催：全国センター、各地方センターと連携広報
- 対象：全国の地域ESD拠点、ESD関係者、企業SDGs担当者、温暖化防止センター、温暖化防止活動推進員 等
- プログラム（計120分）
基調講演（40～50分程度）
話題提供（30～40分程度）
パネルディスカッション・フロアディスカッション（30分程度）
とりまとめと総括

学びあいの場①8月25日16:00～18:00

- 基調講演
【仮】気候危機の科学とリスク・求められる市民の姿：江守 正多先生（国立環境研究所 上級主席研究員）
- 話題提供
【仮】市民目録の脱炭素まちづくり：木原浩貴先生（総合地球環境学研究所 客員准教授）

学びあいの場②9月1日16:00～18:00

- 基調講演
【仮】地球温暖化対策まちづくりにおける市民の役割：杉山範子先生（名古屋大学大学院環境学研究所附属持続的発展教育研究センター 特任准教授）
- 【仮】ゼロカーボンまちづくりの話題提供・福井県大野市脱炭素ビジョン策定協議会・福井県坂井市まちづくり担当課

学び合いプロジェクト・地域づくりのための気候変動社会教育（案）

区分	エリア	設置	開催時期	テーマ・内容案	登壇者／関係者等の想定
多様な主体の連携促進	学び合いの場①	—	オンライン	8/25	◆ ローカルSDGsに向けた脱炭素地域づくり人づくり（オープン） ◆ 気候危機の科学とリスク・求められる市民の姿：江守 正多先生（国立環境研究所） ◆ 市民目録の脱炭素まちづくり：木原浩貴先生（立命館大学講師）
	学び合いの場②	—	オンライン	9/1	◆ 気候危機を乗り越える強靱な地域づくり人づくり（オープン） ◆ 地球温暖化対策まちづくりにおける市民の役割：杉山範子先生（名古屋大学大学院環境学研究所） ◆ ゼロカーボンビジョンづくりの話題提供：福井県大野市脱炭素ビジョン策定協議会、坂井市まちづくり担当課
交流機会の提供	実践活動	福井県大野市	ハイブリッド	11/21or 25	◆ 気候変動対策によるSDGs地域づくりワークショップ（地域対象） ◆ ゼロカーボン宣言やSDGs地域づくりの基礎自治体、在住市民 ◆ 先行地域の担当者、学識者
	SDGs社会教育研究会EPO中部ワーキング	会場：EPO中部ほか	リアル	①8/21 ②9/26？ ③12月頃	◆ 学び合い検討、評価 ◆ ワークブック試行版内容検討 ◆ クローズ開催

SDGs社会教育研究会 全体スケジュール

～5月頃 準備
～6-10月頃 学びあいの場の開催と研究会
11月頃 社会ESD実践活動
12月頃 全国ESDフォーラム（12月）
1月～3月頃 ワークブック試行版のとりまとめ

- ワーキングブック 関連知見の収集と分析
- 学びあいの場プロジェクトの実施計画
- 「学びあいの場」への関係機関・地域に参加を呼びかけ
- 第1回研究ワーキング（8/21）全体計画とワークブック改善の方向性
- 学びあいの場①の開催（8/25）
- 学びあいの場②の開催（9/1）
- 第2回研究ワーキング（9/26？）学びあいの場実施の振り返り、実践活動の計画
- SDGs社会教育実践セミナーの開催（/）
- 全国フォーラムへの参加、発表（12月）
- 第3回研究ワーキング（/）全国フォーラム振り返り、ワークブックへの反映
- ワークブック内容のとりまとめ
- 試行版の公開

テーマ：地域づくりのための気候変動社会教育（案）

SDGs社会教育研究会実践活動企画

実践活動（1回、リアルもしくはハイブリッド）
気候変動教育を地域づくりに活かすSDGs社会教育実践セミナーの開催。
水上委員の連携活動実績を活かした福井県内におけるワークショップの実施を想定。

- 背景と場所
福井県大野市の脱炭素ビジョン策定協議会の成果を踏まえ人づくりをテーマに脱炭素ワークショップを開催する。
- しつらえ
期日：10月～11月ごろの平日
場所：福井県大野市の公共施設
- テーマ：脱炭素のまちづくりひとづくり
- 目標 脱炭素を基盤としたSDGs社会を担う生徒、ユース、市民などへの伝え方を考える
- 対象者 公民館職員、学校教職員、一般市民など
- 規模感 参加30人程度

中部版ESDワークブック試行版の作成

現場から学ぶ！SDGs人材育成ワークブック 企業研修／生涯学習／地域づくりSDGs社会教育・学び合いイベント	プロトタイプ試行版の方向性（案）
プロトタイプ編集版 目次 はじめに - ローカルSDGs実現のための人づくり「SDGs社会教育」が必要なのわけ 「SDGs社会教育」の学習目標～どんな人になってほしいか - 実践方法を考える～中部地方の実例から① - 実践体制をどのように構築するか～中部地方の実例から② - 実践効果をどう考えるか	修正追加 - 具体的に実施してみる～中部地方の実例から③ - 海洋ごみからSDGsを考える - 気候変動教育をまちづくりに活かす - 実践効果をどう考えるか 具体的な測定方法

イ 交流者の参加募集

- 学び合いの場①、学び合いの場②、実践セミナーの参加者募集を行うにあたり、開催案内チラシを作成して、地域ESD拠点への案内、ウェブサイト・SNS等での広報展開を行った。

【作成した開催案内チラシ】

地域づくりのための 気候変動社会教育

学び合いの場①②&実践セミナー

参加無料
 お気軽にご参加ください

**ESD for 2030 学び合いプロジェクト
SDGs社会教育**

中部地方ESD活動支援センターの「学び合いプロジェクト」では「SDGs社会教育」をテーマにESD活動が続けてきました。

今年度はその一環として「気候危機」をサブテーマに取組を展開します。

学び合いの場①では、気候危機についての科学とリスクを改めて見直し、地域や市民がどのように対応すべきなのかを考えます。

学び合いの場②では、気候危機問題を踏まえて、福井県のまちづくり事例なども参考に、ローカルSDGsに向けた地域づくりと人づくりのありかたについて考えます。

温暖化対策にかかわる方、高等教育の先生方、職場教育の担当の方、生涯学習の企画担当の方、もちろん一般で興味のある方も、ぜひご参加ください。

開催概要



学び合いの場①
 2022年8月25日（木）
 16:00～18:00
 気候危機に立ち向かう
 地域や市民のありかたを
 考える
オンライン開催

学び合いの場②
 2022年9月1日（木）
 16:00～18:00
 気候危機問題から
 SDGs地域づくり・人づくり
 を考える
オンライン開催

実践セミナー
 2022年11月25日（金）
 13:30～16:00
 脱炭素の
 まちづくり人づくり
 ワークショップ
**現地《結とびあ》(福井県大野市)
 & オンライン中継**

申込方法

- ▶ 参加申込フォームからお申し込みください。
- ▶ 8/25, 9/1 のzoomの参加URLは、開催日前日までにお送りします。
- ▶ 定員を超過した場合は先着順とし、落選者へのみ連絡いたします。


 ▲申込フォーム

主催・問合せ

中部地方ESD活動支援センター
 (環境省 EPO中部)
 TEL: 052-218-8605

EPO中部 webページ▶





「ESD for 2030 学び合いプロジェクト」について
 全国8カ所の地方ESDセンターでプロジェクトを展開しています。
 詳細は ESD活動支援センター <https://esdcenter.jp/> のwebページをご覧ください！

詳細は裏面へ



中部地方 ESD 活動支援センター
 Education for Sustainable Development

地域づくりのための 気候変動社会教育 学び合いの場①②&実践セミナー

ESD for 2030 学び合いプロジェクト
SDGs社会教育

プログラム
(予定)

学び合いの場①

申込締切 8月22日(月)

気候危機に立ち向かう地域や
市民のありかたを考える

2022年8月25日(木)
16:00~18:00
オンライン開催(zoom)

気候危機問題のエキスパート、江守先生
のご登壇がかないました。木原先生の市
民視点と合わせて楽しみます!

●基調講演

「気候危機の科学とリスク・社会を変えるには」
江守正多 東京大学未来ビジョン研究センター 教授
国立環境研究所 上級主席研究員

●話題提供

「脱炭素社会を見えるものに~市民目線のまちづくり~」
木原浩貴 総合地球環境学研究所 客員准教授

●質疑&ディスカッション&総括

進行 原 理史 中部地方ESD活動支援センター

学び合いの場②

申込締切 8月29日(月)

気候危機問題からSDGs地域
づくり・人づくりを考える

2022年9月1日(木)
16:00~18:00
オンライン開催(zoom)

杉山先生は気象予報士でもあり、話の分
かりやすさは定評が。地域の事例ととも
に議論を深めていきましょう!

●基調講演

「気候危機に立ち向かい持続可能なまちづくりを目指す」
杉山範子 名古屋大学大学院環境学研究科附属持続的
共発展教育研究センター 特任准教授

●話題提供

「市民ワークショップによる「脱炭素」と「地域課題」の
同時解決の図られた将来ビジョンづくり」
田中九一郎 大野市くらし環境部環境・水循環課 課長
「まちづくりワークショップ・まちづくりカレッジによる
気候変動へのアプローチ」
北川直規 坂井市総合政策部まちづくり推進課 課長

●質疑&ディスカッション&総括

進行 原 理史 中部地方ESD活動支援センター

実践セミナー

申込締切 11月21日(月)

脱炭素のまちづくり人づくり
ワークショップ

2022年11月25日(金)
13:30~16:00
現地&オンライン中継

●ワークショップ

「ローカルSDGsのための
福井県版気候変動教育プログラム体験」**仮題**

開催場所 結とびあ[多田記念大野有終会館](福井県大野市)

ファシリテーター 水上聡子 アルマス・バイオコスモス研究所 代表

総括 佐藤 真久 東京都市大学大学院環境情報学研究科 教授

★ワークショップは現地参加者のみとします。
★オンライン中継の視聴を希望される方も
申込が必要です。

ウ SDGs 社会教育研究ワーキングの開催

(ア) 第1回ワーキング

①日時

- 2022年6月21日（火）13:30～16:30

②会場

- 富山県民会館 608号室（富山県富山市）

③出席者

- 6名



古澤 礼太	中部大学国際 ESD/SDGs センター准教授、中部 ESD 拠点協議会事務局長
水上 聡子	EPO 中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表
堺 勇人	EPO 中部運営委員、一般社団法人環境市民プラットフォームとやま(PEC とやま)事務局長
原 理史	中部地方 ESD 活動支援センター、中部大学国際 ESD/SDGs センター研究員(非常勤)
原 慎一郎	オブザーバー 環境省中部地方環境事務所環境対策課長補佐
清本 三郎	中部地方環境パートナーシップオフィス 統括

④協議項目

1. 昨年度の振り返り
2. 今年度活動の計画
 - (1) 公開イベントの計画
 - ・オンラインセミナー学び合いの場①、②の開催計画
 - ・実践活動（セミナー）開催計画
 - (2) ワークブックバージョンアップの企画

(イ) 第2回ワーキング

①日時

- 2022年9月26日（月）13:30～16:30

②会場

- ホテルエコノ福井駅前会議室
（福井県福井市）



③出席者

- 7名（委員3名、中部地方環境事務所1名、事務局3名）

古澤 礼太	中部大学国際 ESD/SDGs センター准教授、中部 ESD 拠点協議会事務局長
水上 聡子	EPO 中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表
堺 勇人	EPO 中部運営委員、一般社団法人環境市民プラットフォームとやま(PEC とやま)事務局長
原 理史	中部地方 ESD 活動支援センター、中部大学国際 ESD/SDGs センター研究員(非常勤)
原 慎一郎	オブザーバー 環境省中部地方環境事務所 環境対策課長補佐
清本 三郎	事務局 EPO 中部統括
富田 夏子	事務局

④協議項目

1. 学び合いの場①、②の振り返り
2. 実践活動（セミナー）の開催計画
3. ワークブックバージョンアップの議論

(ウ) 第3回ワーキング

①日時

- 2022年12月20日（火）13:30～16:30

②会場

- EPO 中部（中部環境パートナーシップオフィス）

③出席者

- 7名（委員3名、ゲストアドバイザー1名、中部地方環境事務所1名、事務局2名）

古澤 礼太	中部大学国際 ESD/SDGs センター准教授、中部 ESD 拠点協議会事務局長
水上 聡子	EPO 中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表
堺 勇人	EPO 中部運営委員、一般社団法人環境市民プラットフォームとやま(PEGとやま)事務局長
原 理史	中部地方 ESD 活動支援センター、中部大学国際 ESD/SDGs センター研究員（非常勤）
佐藤 真久	東京都市大学大学院環境情報学研究科 教授
原 慎一郎	オブザーバー 環境省中部地方環境事務所 環境対策課長補佐
清本 三郎	事務局 EPO 中部統括

④協議項目

- 実践活動（セミナー）振り返り
- ESD 推進ネットワークの状況
- ワークブックバージョンアップの議論



エ 学び合いの実施

(ア) 学び合いの場①の開催

①イベント名

- 地域づくりのための気候変動社会教育
～学び合いの場①：気候危機に立ち向かう地域や市民のありかたを考える

②日時

- 2022年8月25日（木）16：00～18：00

③開催方法・会場

- 開催方法：オンライン（zoom）

④主催等

- 主催：中部地方 ESD 活動支援センター

⑤出席者

- 60名（接続数／登壇者・事務局含む）

⑥協議項目

○ごあいさつ

○基調講演「気候危機の科学とリスク・社会を変えるには」

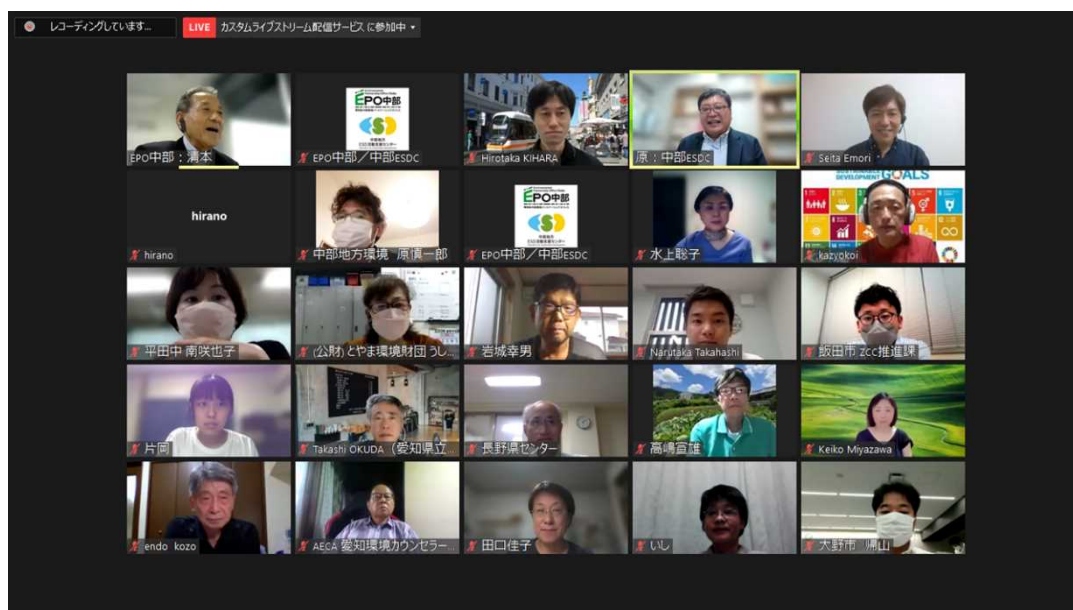
東京大学未来ビジョン研究センター 教授、国立環境研究所 上級主席研究員 江守 正多 氏

○話題提供「脱炭素社会を見えるものに～市民目線のまちづくり～」

総合地球環境学研究所 客員准教授 木原 浩貴 氏

○質疑&ディスカッション&総括

進行：中部地方 ESD 活動支援センター 原 理史



(イ) 学び合いの場②の開催

①イベント名

- 地域づくりのための気候変動社会教育
～学び合いの場②：気候危機問題から SDGs 地域づくり・人づくりを考える

②日時

- 2022 年 9 月 1 日（木）16：00～18：00

③開催方法・会場

- 開催方法：オンライン（zoom）

④主催等

- 主催：中部地方 ESD 活動支援センター

⑤参加者

- 61 名（接続数／登壇者・事務局含む）

⑥プログラム

○ごあいさつ

○基調講演「気候危機に立ち向かい持続可能なまちづくりを目指す」

名古屋大学大学院環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター 特任准教授 杉山 範子 氏

○話題提供「市民ワークショップによる「脱炭素」と「地域課題」の同時解決の図られた将来ビジョンづくり」

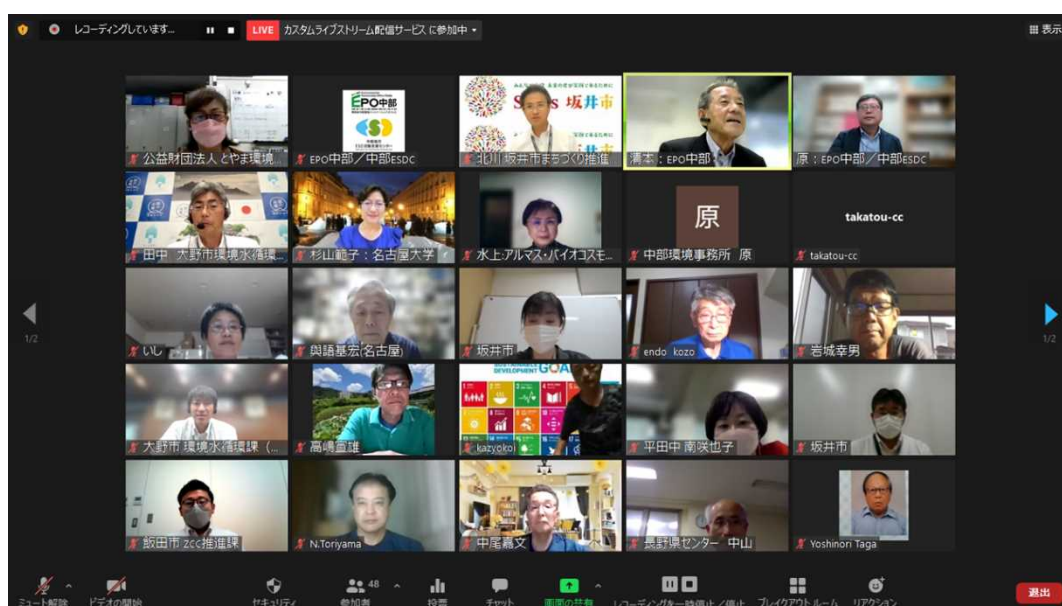
大野市くらし環境部環境・水循環課 課長 田中 九一郎 氏

○話題提供「まちづくりワークショップ・まちづくりカレッジによる気候変動へのアプローチ」

坂井市総合政策部まちづくり推進課 課長 北川 直規 氏

○質疑&ディスカッション&総括

進行：中部地方 ESD 活動支援センター 原 理史



オ 実践活動の開催

①イベント名

- 地域づくりのための気候変動社会教育
実践セミナー 脱炭素のまちづくり・人づくりワークショップ

②日時

- 2022 年 11 月 25 日（金）13：30～16：00

③開催方法・会場

- 開催方法：ハイブリッド
 - 会場：結とびあ〔多田記念大野有終会館〕（福井県大野市）
 - オンライン：zoom

④主催等

- 主催：中部地方 ESD 活動支援センター

⑤参加者

- 計 51 名
 - 会場参加：30 人（登壇者・事務局・関係者含む）
 - オンライン中継視聴：21 件（zoom 接続数）

⑥プログラム

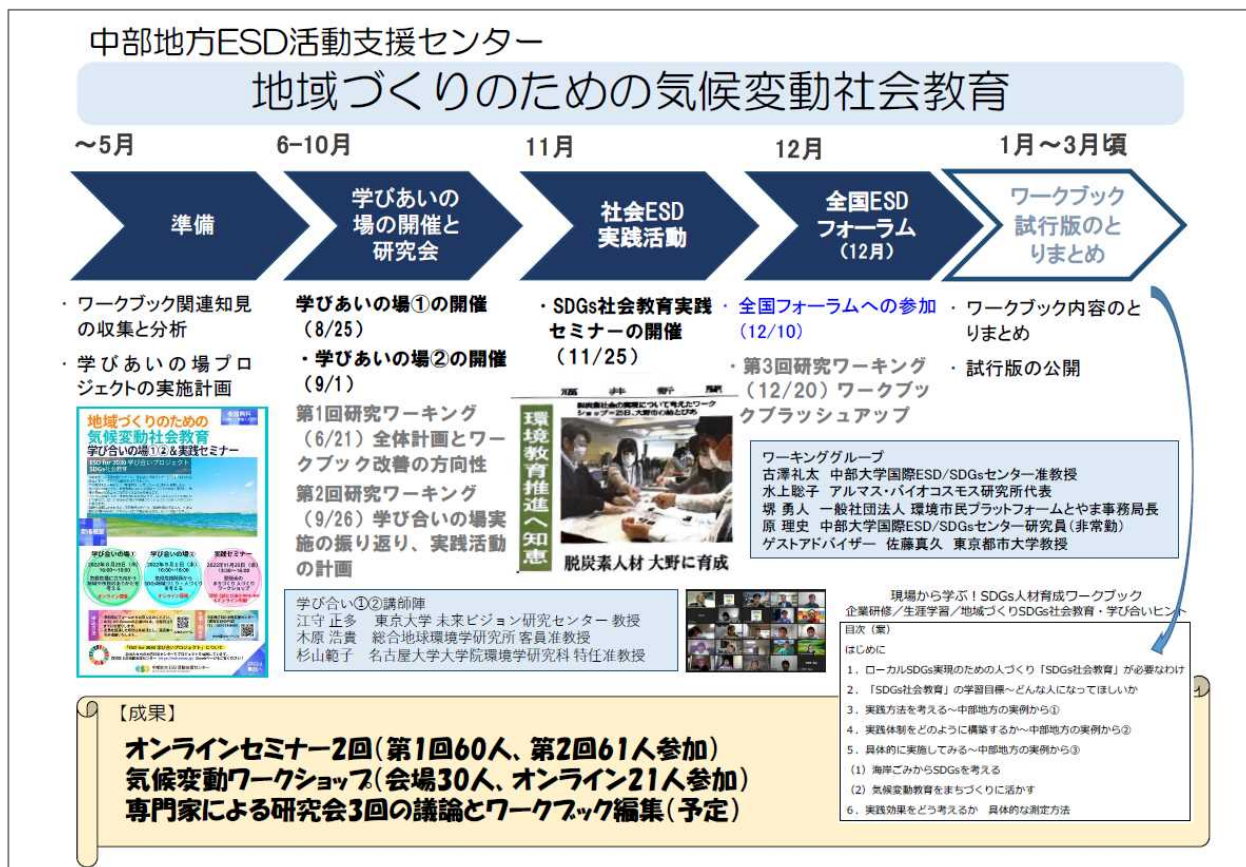
- ごあいさつ、趣旨説明
- ワークショップ体験①
福井県版気候変動ミステリーワークショップ
- ワークショップ体験②
課題解決ワークショップ -ジグソー法を用いて-
ファシリテーター：アルマス・バイオコスモス研究所 代表 水上聡子氏
- 講評・総括：東京都市大学大学院環境情報学研究科 教授 佐藤 真久 氏
- ふりかえり



カ 報告（全国フォーラムでの活動結果報告）

- 12月10日開催・ESD活動支援センター（全国センター）主催「ESD推進ネットワーク全国フォーラム2022」に参加し、中部の「ESD for 2030 学び合いプロジェクト」（「学び合いの場①②」「実践セミナー」）の実施結果について報告・発表を行った。

【作成した全国フォーラム発表資料】



(6) 「(仮) 中部版 ESD ワークブック」(試行版) の作成

- 中部地方ローカル SDGs を担う人材育成に役立つ ESD 情報ツールパッケージとして、「(仮) 中部版 ESD ワークブック」(試行版) を、昨年度作成したワークブック (プロトタイプ版) の改訂原稿をもとに作成した。
- ワークブックの内容・構成等については、「SDGs 社会教育研究会WG」で検討・協議のうえ作成した。

環境省 ESD推進ネットワーク 令和4年度学びあいプロジェクト 令和4年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務 試行版 (事務局案) 現場から学ぶ！SDGs人材育成ワークブック 企業研修／生涯学習／地域づくり SDGs社会教育・学び合いヒント 中部地方ESD活動支援センター SDGs社会教育研究会 2023年3月 目次 はじめに 1. ローカルSDGs実現のための人づくり「SDGs社会教育」が必要なわけ 2. 「SDGs社会教育」の学習目標～どんな人になりたいか 3. 実践方法を考える～中部地方の実例から① 4. 実践体制をどのように構築するか～中部地方の実例から② 5. 具体的に実施して～中部地方の実例から③ 6. 実践効果はどう考えるか	はじめに 環境省の事業であるESD推進ネットワークでは、様々な分野でのESD推進を支援しています。全国8つの地方センターのうち中部地方ESD活動支援センターでは社会におけるESD推進を目的とした支援活動を展開してきました。このワークブック (試行版) は令和3～4年度の地方センターそれぞれが特徴のあるテーマに沿って活動する「学びあいプロジェクト」の2年目までの活動成果をとりまとめたものです。中部地方ESD活動支援センターのテーマは「社会へのESDの実装」としてあり、ローカルSDGsを担う人材づくりをSDGs社会教育と呼び、その枠組みを戦略的に検討することを試みました。 プロジェクトではSDGs社会教育研究会WGによる年に3回の研究会、公開オンラインセミナー2回、公開現地ワークショップ1回、全国ESD推進フォーラム分科会などの活動を経て検討を進めてきました。これらの結果を元にして社会ESDの現場でヒートとなるよう、枠組みを作成したのが本書です。企業研修／生涯学習／地域づくり等の現場で、何か一つでも皆様のお役に立つ内容があれば幸いです。 様々な検討にあたり現場の関係者やその他支援をいただいた皆様をはじめ、ESD推進ネットワークの関係者の皆様に感謝します。特に京都市大学の佐藤真久先生には、学術的寄与をはじめとした専門的な助言に感謝いたします。 2022年3月環境省EPO中部・中部地方ESD活動支援センター SDGs社会教育研究会WG SDGs社会教育研究会WG 古澤礼太 中部大学国際ESD/SDGsセンター准教授、中部ESD拠点協議会事務局長 水上聡子 EPO中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表 堺 勇人 EPO中部運営委員、一般社団法人環境市民プラットフォームとやま (PECとやま) 事務局長 原 理史 中部地方ESD活動支援センター、中部大学国際ESD/SDGsセンター研究員 【オブザーバー】環境省 中部地方環境事務所環境対策課 【事務局】清本三郎 EPO中部統括
--	---

1. 「SDGs社会教育」が必要なわけ 2021年5月に策定された「持続可能な開発のための教育 (ESD)」に関する実施計画 (第2期 ESD国内実施計画) では「ESD for 2030」の理念を踏まえ、ESDがSDGs達成への貢献に資するという考え方が初めて明確化されました。 実際に計画の中では、「第1章総論。2. 本計画の位置づけと実施体制において」、「我が国のSDGsに関する方針を踏まえつつ、持続可能な社会の創り手の育成を効果的に推進することが求められる」とされています。 また「第2章具体的取組。1. 優先行動分野における各ステークホルダーの取組」では、「(5) 優先行動分野5：地域レベルでの活動の促進」として「地域においては様々なステークホルダーが連携しながら、身近な課題を解決するための行動変容を促し、ESDを通じて地域づくりを推進していくことが求められる」とされ、ESDによるローカルSDGsの推進が期待されています。 すなわち、地域における持続可能な社会づくりのためには、ESD=人材育成が必要とされ、地域づくりにつながるかとされているのです。この人材育成には学校教育はもちろんですが、社会人やその準備軍であるユースにおいてもSDGs教育が欠かせません。そうした意味で「SDGs社会教育」は今日的な重要課題なのです。 注：「SDGs社会教育」の意味 社会教育法では第二条で「法律で「社会教育」とは、学校教育法(昭和二十二年法律第二十六号)に基き、学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動(体育及びレクリエーションの活動を含む。)をいう」と定義されています。本書ではこれを踏まえ、社会教育法が目的とする「国及び地方公共団体の任務」内容を支援し、ローカルSDGs達成に資する、企業研修／生涯学習／地域づくりなどの現場で実施される、社会におけるESDを示す用語として用いています。	2. 「SDGs社会教育」が目指すもの～どんな人になりたいか 持続可能な社会を担う人づくり、すなわちESDが目指す人のビジョンとはなんなのでしょうか。本書では広石、佐藤の著書参考に、ユネスコが示す8つのキーコンピテンシーと、Durajappah, Anantha (2019) の示す社会・情動的知性 (Social and Emotional Intelligence: SEI) を重要視し、地域を担う能力や資質をもつことが重要と考えました。 ここでユネスコの8つのキーコンピテンシーをすべて個人が備えることはかなり難しいとも言えます。そこで重要になるのは「受援力」と「協働」です。専門的能力はもちろん、様々なキーコンピテンシーに長けた多様な主体が協働することによってローカルSDGs地域づくりに大きな力を発揮することができそうです。その際、地域、企業、団体での「協働」取組には基盤となるマインドが必要です。ここではSDGsマインドと呼び、社会情動的知性 (SEI) がその根幹を成すと考えます。
---	--

2. 「SDGs社会教育」が目指すもの～学び合いの場づくり 「SDGs社会教育」を行うということはどういうことでしょうか。端的に言えば学習の場を作ることと考えられます。そこにはコーディネーター「場を作る側」と参加者「場に参加する側」がいます。そして地域課題に取り組むための「学び合い」が行われることによって人づくりが促進されると考えました。つまり、地域社会でのESDは人づくりであると同時に地域づくりでもあり、また協働による「学び合い」がESDを促進します。その「学び合い」の結果として、「場を作る側」も「場に参加する側」も、持続可能な地域を担う「ひとのビジョン」(なりたい人)に近づいていくと考えられます。	3. 実践方法を考える～中部地方の実例から① SDGs社会教育の実践方法を考えるために、中部地方の実践実例を整理し、その特徴について検討しました。実践事例としてSDGs社会教育研究会WGのメンバーの報告から3つの事例を取り上げました。 大岡地区「助け合いのまちづくり」 福井県坂井市大岡助け合いのまちづくり推進委員会の取組 坂井市のコミュニティセンター (公民館) を拠点に、まち協、地域団体、地域住民、学校、事業所等が協働し、まちづくりを推進する事業の一環として実施。大岡地区のまちづくりの土台として、ワークショップ (大岡助け合いのまちづくりWS) で「まちづくりプラン」を策定。プランを元に課題解決型フィールドワーク・ワークショップ (事例：ごみ探検！ワークショップ) を実施。 SDGsトークカフェ 環境市民プラットフォームとやまの取組 光教寺SDGs OTTERA caféと連動し、完全オンライン1回を含むリアル・ハイブリッドのトークカフェを6回開催。「どんな富山だったら誰もが生きやすくなるだろう?」をテーマに、生きづらさを感じている人日々接する実践者をゲストに誰もが参加できるカジュアルなトークとワークショップから成る講座を開催。 中部サステナ政策塾 中部ESD拠点協議会 (国連大学認定ESD地域拠点 (RCE)) の取組 ポリシーメーカーの志のある20～30代の若者を対象に、サステナリティ政策を学ぶ講座を実施。ゲスト講師による講演とディスカッションなどの座学、地域でのフィールドワークを実施。講師には政治家・学識経験者・企業家・NPO関係者など。場で活躍するゲストを迎え、年間10回程度の講座を開催。2021年度はこれに加えてSDGsプロジェクトそのものを企画実行するプログラムを実施。
---	---

3. 実践方法を考える～中部地方の実例から①：事例の概要			
活動名	大田地区「助け合いのまちづくり」	SDGsトークカフェ	中部サステナ政策塾
参加者の属性 (募集対象)	地域住民（地域限定）、各種団体（行政、住民組織、市民団体） 他	地域住民など、関心のある市民（現地、オンライン参加）、テーマに沿った当事者（現地参加）	ユース世代（39歳以下）、意欲のある個人、企業や行政からの派遣
目的	SDGs地域の担い手の能力育成	社会課題の理解、共有	SDGs社会の担い手育成
目標	まちづくりプラン策定、及びその実現のための意欲向上と、行動実務のための、できること見つけ	課題の見える化、自分事化	広い意味でのSDGs社会のポリシューメーカーを育成、及び仕組みづくり
プログラムの 特徴	フィールドワークと室内ワークショップの組み合わせ	気楽な対話形式とグラフィックファシリテーターによる絵画的即時フィードバック	講演、ワークショップ、現場視察の組み合わせ。具体的なSDGsプロジェクトの企画立案と実践
場所の特徴	対象地域の現場、公民館（コミュニティセンター）	SDGs取組に理解あるお寺、オンライン	会議室、オンライン、プロジェクト現場
狙いとした SDGs人材の 資質	ユネスコ8つのキーコンピテンシーの内、特に、④方略的コンピテンシー、⑤協働コンピテンシー、⑦自己認識コンピテンシー	社会・協働的知性のある、特に、 ●マインドフルネス（mindfulness）、●共感（empathy）、●寄り添い（compassion）	ユネスコ8つのキーコンピテンシーの内、特に、①システム思考コンピテンシー、④方略的コンピテンシー、⑤協働コンピテンシー、⑥クリティカル（批判的）思考コンピテンシー、⑧統合された問題解決コンピテンシー
ESD分類	地域課題解決型ESD	社会課題内面化ESD	社会課題解決型ESD

3. 実践方法を考える～中部地方の実例から①

ねらいや目的によって事業やプログラムの実践デザインを考えることが重要！

報告された3つの事例を、その目的や学習目標、プログラムの特徴などについて分析した結果、ESDの目的によって、プログラムや手法に特徴があることがわかりました。すなわち、SDGs社会教育実践のねらいや目的によってプログラムや手法について適切なデザインをすることが必要と考えられます。また、実践のためのデザインを行う場合、普及啓発事業デザインを参考にコンテンツ、アプローチ、コミュニケーション場、フォローアップの4つの側面から検討すると考えやすくなります。

3. 実践方法を考える～中部地方の実例から①：SDGs社会教育・実践デザインの考え方の例

SDGs社会教育の現場を実践デザインとして考えた時の一つの例です。普及啓発事業デザインを参考にしています。4つの側面からデザインを考えます。括弧内はデザインを考える時に主たる担当者です。

参考：原理史・永上智子・高本三郎・福井英樹（2020）「ナッジ活用のための働き方改善事例のデザイン分析」『環境共生』vol.36no.1, pp.3-11

4. 実践体制をどのように構築するか～中部地方の実例から②

SDGs社会教育を実施する仕掛けはどんなのが考えられるでしょう。またどんなニーズで実施することが考えられるでしょう。例えば、SDGsに取組むたい企業の経営者は従業員に対して、ローカルSDGsを目指す自治体の担当者は行政職員や市民に対して、自治会の会長はその地区の住民に対して、大学は学生に対して、実施したいと考えるでしょう。ニーズを最も感じている主体それぞれが主催者になってSDGs社会教育を実践することになります。

すると様々な制約条件が出てきます。人材や資金はその最たるものです。どうすれば克服できるのでしょうか。ここでは「こと」、「ひと」、「もの」、そしてそれを調達する「金」を資源（＝制約条件）と考え、実例でどのようなものを調達したのかを示しました。

4. 実践体制をどのように構築するか～中部地方の実例から②

実践体制実現のポイントは？「協働」と「資金」をいかにつくるかが重要！

報告された3つの事例を、実践体制実現のポイントという観点から「こと」、「ひと」、「もの」、「金」をキーワードとして分析しました。

その結果、「ひと」は人脈やネットワークが、「もの」はそれに付随した特徴ある開催場所やツールが、そして「こと」はイベント相乗効果や情報発信、あるいは「ひと」ネットワーク活用のための仕組みであることが見えてきます。これらはすべて「協働」のノウハウであるとも言えます。一方、そのコストを賄う方法が欠かせません。公的な予算や助成をいかに活用するかが大切です。そのためにも十分な説明を権限者に打つ必要があります。また企業の依頼も考えられ、SDGs取組ニーズを満たすためのコミュニケーションもこれが必要となるでしょう。

活動名	大田地区「助け合いのまちづくり」	SDGsトークカフェ	中部サステナ政策塾
実施主体の分類	地元有志とまちづくり協議会の協働による推進委員会	SDGs活動の中間支援団体	ESD活動団体
実現のポイント	こと 声をかける、オープンでフラットな関係性	ひと デザイナーによる各種デザイン（グラフィック）、メディアへのプレスリリース	もの 他のイベントに串つかる（相乗効果）
金	基礎自治体予算から支出される、まちづくり協議会の予算	助成金、行政からのSDGs事業受託、企業家会（SDGs取組ニーズ）	助成金（申請書をうまく書く）、アイデアが重要、自治体自らの関心

5. 具体的に実施してみる～中部地方の実例から③

当センターが2021～2022年度に開催した「実践セミナー」を題材に、どのように具体的なデザインを行うかを整理しました。整理はコミュニケーション場のデザインを対象として以下のモデルに当てはめることで行いました。

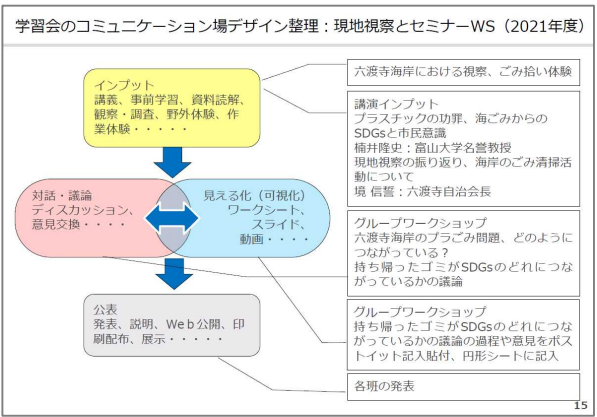
221220研究資料より、原（千葉敬）

5. 具体的に実施してみる（1）海岸ごみからSDGsを考える

2021年度SDGs社会教育～実践セミナー
海岸プラごみ清掃から流域のローカルSDGsの担い手づくりへ

2021年10月30日（土）11:00～16:30
現地視察とセミナーWS、オンラインハイブリッド開催
＜午＞：現地視察＜11:00～16:30＞六渡寺海岸（富山県射水市）にて視察体験（オンライン中継）

- 集合：10:45
- 活動：徒歩で六渡寺海岸へ、視察、ごみ拾い体験
- 昼食休憩
- 午後：ワークショップ13:30～ オンライン併用
- はじまり：本セミナーの内容について説明（10分）
- インプット：プラスチックの功罪、海ごみからのSDGsと市民意識（30分） 橋井理史：富山大学名誉教授 現地視察の振り返り、海岸のごみ清掃活動について（30分） 堀 信隆：六渡寺自治会長（休憩10分）
- グループワークショップ（40分） 六渡寺海岸のプラごみ問題、どのようにつながっている？ ワークショップ結果発表と討論（30分） コーディネーター 原理史 中部地方ESDC
- 総括コメント
- 実践活動の学びを持続可能な社会に活かす地球市民（20分） 佐藤真久東京都市大教授



5. 具体的に実施してみる（2）気候変動教育をまちづくりに活かす

2022年度SDGs社会教育～実践セミナー

気候変動教育を地域づくりに活かすSDGs社会教育実践セミナー

●開催目的
地域づくりの担い手や次世代育成のための、気候危機対策のまちづくりワークショップをローカルSDGsの取組の一環として実践する。

●開催概要
タイトル：ローカルSDGsのための福井県版気候変動教育プログラム体験
ファシリテーター 水上聡子 アルマス・バイオコスモス研究所 代表
総括 佐藤真久 東京都市大学大学院環境情報学研究所 教授
開催場所：福井県大野市 結とびあ（多田記念大野有終会館）
開催方法：現地開催、オンライン中継
開催日時：2022年11月25日（金）13:30～16:30

時間	内容	講師
13:30	挨拶 会場説明 福井県版気候変動教育の経緯	●環境省中部地方環境事務所 ●大野市長 説明：水上
13:40	気候変動ワークショップ体験 ①「ミステリー」（55分）	水上：ファシリ、原及び博：アシスタント ・ミステリーワークショップ ・2組程度事前発表
14:35	休憩（10分）	
14:45	気候変動ワークショップ体験 ②「ジグソー」（55分）	水上：ファシリ、2期について原及び博が伴走ファシリ ・3組ワークショップ ・2期事例の報告
15:40	講評と総括（10分）	原：要内役 講評と総括：佐藤先生
15:50	ふりかえりシート記入	・全参加者 総括アンケートに回答、回収
15:55	終了挨拶、解散～	・終了挨拶 福井先生

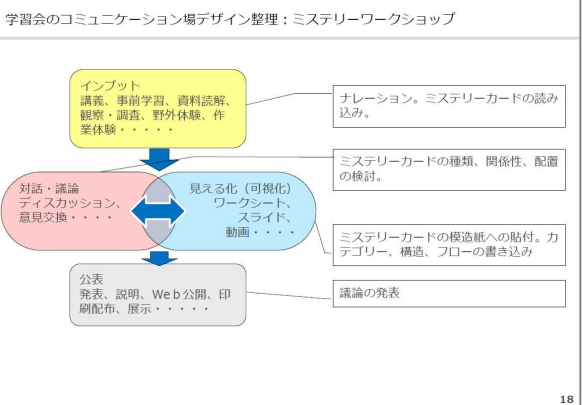
2022年度SDGs社会教育～実践セミナー

○ミステリーワークショップ

「ミステリーカード」（24枚1組）を、グループで議論しながら論理的に関連付けて並べます。
このグループワークを通じて、気候変動によりどんな現象が発生しているかを把握し、気候変動には様々な事柄が複雑に絡み合っていることを学びます。

ミステリーカード
気候変動に関する様々な事実が1カード1ファクトとして24枚配られる。

ミステリーカードの関係性を議論して構造化する。並べて線や矢印を記入説明を加える。



2022年度SDGs社会教育～実践セミナー

○課題解決ワークショップ（ジグソー法）

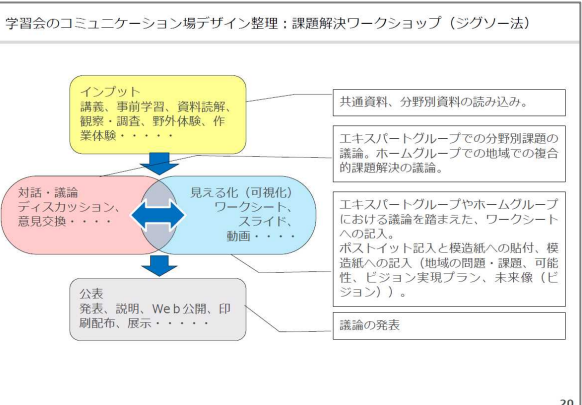
基礎知識を学習後、グループに分かれ、エネルギー事情など3分野の「統計データ集」から現状を分析し、批評します。それを基に地域の将来の理想像を考え、この理想像を実現するために必要な課題解決策をジグソー法により導き出します。

3人組のホームグループを複数作ります。グループを構成する3人は、それぞれ専門分野（例えば「交通」、「エネルギー」、「農林水産」）を担当します。

①事前：事務局で用意した気候変動や地域に関する資料「統計データ集」の読み込み。資料は専門分野と共通資料の2種類を使います。

②エキスパートグループ（分科会）に分かれます。他のホームグループの同じ専門分野について気候変動問題から見たまちづくりの課題を議論します。

③ホームグループに持ち帰って気候変動に田畑するまちづくりについて複合的に課題解決に向けた検討を行います。



6. 実践効果をどう考えるか

SDGs社会教育の実践がどのような効果をもたらしたのか。それを把握することは事業の改善のためにも、対象者へのさらなる働きかけのためにも重要です。前述した学習目標に対する資質の向上について少なくとも自己評価のアンケート調査することが望まれます。また行動変容への動機づけが行われたか大切な効果です。そこでユネスコ8つのキーコンピテンシー、社会・情動的知性（SEI）に加え、内発的動機づけの三つの欲求が刺激されたかどうかを組み合わせたアンケート項目を試作しました。当センターの「学びあいプロジェクト実践セミナー」（2021年度）で試用した結果を以下に示しますので参考にしてください。

アンケート項目の例（そう思う～あまり思わない、段階選択形式）

海ごみ問題の解決には・・・	コンピテンシー	社会情動的知性	内発的動機づけ
1) 様々な要素が関わり合っていることを知る事が大切。	システム思考		可能性
2) 起こり得る様々な未来の姿を予測して取り組むことが大切。	予測		自律性
3) 自分はそのように行動したらよいか判断できる事が大切。	規範的		自律性
4) 戦略的・計画的な方法を練ることが大切。	戦略的		可能性
5) 他者の立場や意見を尊重し、協力して進める事が大切。	協働的	寄り合い・共感	関係性
6) 別の考え方や方法がないか問いかけている事が大切。	批判的思考	批判的問いかけ	自律性
7) 自分は何ができるか、「役割」を考える事が大切。	自己認識		可能性
8) 関連する様々な課題を整理し、統合的な方法を考える事が大切。	統合的問題解決		可能性
9) 考える時に、自分の感覚や気持ちを尊重することが大切。		マインドフルネス	自律性

SDGs社会教育効果測定の実施例（原：清水、上：2022年2月、ローカルSDGsのためのESDの社会実践～気候変動教育を通じた地域づくり、日本環境教育学会中部会第3回中部地区大会発表スライドより）

6. 実践効果をどう考えるか

例）実践セミナーにおけるアンケートの試用とその結果

試用対象：実践セミナー「海洋プラごみ清掃から流域のローカルSDGsの担い手づくりに」2021年度

2021年10月30日（土）11:00～16:30
現地視察とセミナーWS
オンラインハイブリッド開催

＜午前：現地視察＞11:00～六選寺海岸（富山県津山市）
●集合：10:45
●活動：徒歩で六選寺海岸へ、視察、ごみ拾い体験

昼食休憩

＜午後：ワークショップ＞13:30～
●はじめに、本セミナーの内容について説明
●インプット
プラスチックの功罪、海ごみからのSDGsと市民意識 橋井隆史：富山大学名誉教授
現地視察の振り返り、海岸のごみ清掃活動について 境 信賢：六選寺自治会長
体験（10分）
●グループワークショップ
六選寺海岸のプラごみ問題、どのようにつながっている？
ワークショップ結果発表と討論
コーディネーター 原 理史 中部地区ESDC
●総括コメント
実践活動の学びを持続可能な社会に活かす地球市民 佐藤真久：東京都市大学教授

海ごみを題材としたSDGsワークショップの開催後のアンケート結果を分析した例です。キーコンピテンシーでは「システム思考」、「規範的」、「自己認識」について学習効果があったと考えられます。また内発的動機づけは「可能性」、「自律性」、「関係性」の3つの欲求すべてが刺激されたと考えられます。一方、社会情動的知性については「寄り合い・共感」という、協働の下地となる基盤的態度が醸成されたと考えられます。

(7) 教育現場の実態把握と連携強化

- 教育現場の専門家との連携を強化し、効果的にESD業務を展開するため、SDGsの取組、ESD実践の推進状況等について、専門家1名、教育現場の関係者2名を対象にしたヒアリングを実施した。

ア 専門家への包括ヒアリング

ヒアリング対象	愛知教育大学 理科教育講座教授 大鹿聖公
実施日	令和5年2月14日 11:00~13:00
実施場所	愛知教育大学大鹿研究室
ヒアリング結果	
○ESD・SDGsの取組 ■ これまで理科教育の研究者という点から自然環境のフィールドで活動してきた。その過程で河川財団や公園財団などと接触連携してきた。 ■ 理科が嫌いな子どもも理科を理解してほしいとの思いで活動してきたが、河川はわかりやすくその背景の生態系ひいては社会環境など、環境教育のフィールドとして重視してきた。理科教育は地域での活動がやはり効果的だと考えてきた。 ■ 2010年のCOP10から愛知教育大学で活動を行っており、その流れでESDにずっと関わってきた。 ■ 現在は研究室でSDGs・ESDの活動を行う他、令和4年度ユネスコ活動費補助金（SDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業）を活用した「SDGs達成のための教育「ESD」を実践し「持続可能な社会の創り手」を育むESD for 2030 TOKAIプロジェクト」を推進している。ここではESD推進のために東海地方の3つの大学のほか3県の小中高の学校、自治体、企業、社団法人などの民間団体などとともにネットワーク構築を進めている。 ■ 愛知教育大学として全学的にもESDを取り組む必要があるという議論を現在している。教員養成課程として必修履修化などの話題が出ている。 ○ESD・SDGsの取組の課題 ■ ESDを知らないことにつきる。その原因として言葉がきらい、理解できない、納得できるキーワードがないということが挙げられる。 ■ 新しい学習指導要領で盛り込まれたとはいっても教師のところまで落ちていない。 ■ 一方では企業はSDGsに関心があるにもかかわらずESDを伝える手段がない。 ■ ESDはある意味SDGs教育といっていいが、SDGsの暗記ではない。そこにESDのわかりにくさがある。 ■ SDGsは一つの目標で、到達する手段としてESDが不可欠という概念を、「山の頂上ゴール（SDGs）、登る方法（服装・道程）プロセス（ESD）、つまりSDGsという目標に向かってそこに到る方法を学ぶことがESD」という説明をしている。この時「身近な」というアプローチが非常に重要だと感じている。 ■ 愛知教育大学の学生がSDGsにチャレンジするという意欲が薄いのをなんとかしたい。 ■ ただし学校教育現場では教員の余裕が全くないので、ESDのような新しい概念の定着は相当難しい。そうした意味では社会教育は重要となるし、SDGs未来都市には期待したいところではある。 ○ESD・SDGsの取組の今後の支援や期待 ■ 例えば教員研修で「ESDってなに」研修を行うことは考えられるが、おそらく教員は忙しくて参加しないだろう。 ■ 各自治体の教育長、教育委員会の委員の方がいる意味で「ESD研修」の意義があるかもしれない。地域づくりにESDは不可欠と認識してもらえば、教育現場に意見できる立場なので。	

イ 教育部局、教育委員会、現場の教員等を対象にしたヒアリング

ヒアリング対象	松本大学大学院 総合経営研究科／総合経営学部 観光ホスピタリティ学科 専任講師 田開 寛太郎
実施日	令和5年2月19日 15:00～17:00
実施場所	EPO 中部
ヒアリング結果	
○大学における ESD・SDGs の取組 - 大学を卒業してからは、キープ協会インターンや富山県立大学のコーディネーターなど、体験的な学びに関わってきた。 2018 年度から松本大学のすべての学年で生活、自然、産業に関係する科目など、例えばエコツアーを取り上げるといった持続可能性の問題について触れてきていたが、SDGs を意識して取り入れてきたのは最近のことである。 - 現在では例えば観光ホスピタリティ学科の授業で、観光産業での SDGs 教育旅行などに取り入れる工夫をしている。 - また大学のカリキュラム編成でも SDGs に対応した科目の位置づけ直しが進んでいる。 ○社会教育としての ESD・SDGs の取組 - 縁があって飯田市の遠山地区での ESD を通じたまちづくりに個人として関わっている。 - 飯田市では教育を活用したまちづくりを推進しており、地域の公民館、公共施設、学校等が連携し立教大学 ESD 研究所をはじめとする市外の大学との連携で様々なひとづくり事業を行っている。これらの事業は飯田大学連携会議「学輪 IIDA」として運営されている。 - こうした活動には松本大学の田開研究室の学生も参加しており、地域に入り込む形で大学教育での ESD が実践されている。 ○ESD・SDGs の取組の課題 - 地域と連携した全世代対象の ESD では、例えばコミュニティスクールにおける社会人教育カリキュラムのような系統的なカリキュラムを作るのが難しい。 - 具体的、実践的なカリキュラムを組み立てるためには、企画の段階で地域の人に入ってもらわなければならないが、（決めた役割を頼めば引き受けてくれるが）積極的に関わろうという地域住民はやはり少ない。 - またこれらを通じた SDGs 地域づくりは、持続性を確保するための経済合理性が重要となるが、地元の人々は観光や経済活動との融合については、お金が動くことに用心深くなる。 ○ESD・SDGs の取組の今後の支援や期待 - 立教大学の遠山地区での社会教育分野の ESD 支援は地域づくりについて大きな貢献をしている。例えば飯田市、飯田信金、長野県地域振興局では、地域づくりについて SDGs をキイにして推進するための環境文化都市づくりプラットフォーム事業「うごくる」を来年度から立ち上げると聞いている。こうした ESD 的な社会教育支援が広がるとよい。 - 学生活動への支援があるといい。学生自身がやりたいことが地域に入り込んで活動できるような支援体制があるといいのではないかな。	

ヒアリング対象	愛知県東浦町立緒川小学校 (全学的に ESD に取り組んでいるユネスコスクール認定の小学校)
実施日	令和 5 年 2 月 13 日 10 : 30 ~ 15 : 30 学校参観にて取組を取材、意見交換会に参加 令和 5 年 2 月 14 日 08 : 30 ~ 10 : 00 鬼頭校長先生に補足ヒアリング
実施場所	両日とも愛知県東浦町立緒川小学校
ヒアリング結果	
○ESD・SDGs の取組とその成果 ◇これまでの取組 ■ 緒川小学校では、昭和 53 年に校舎をオープンスクール形式に改修したことをきっかけに、ノーチャイム制や 2 時限を統合し 95 分を一単位とした 1 日 3 ブロック制を導入し、独自の学びの環境作りを推進してきた。 ■ 現在の基本的な教育課程は、総合学習「生きる」を通じた協働的な学びを推進する「集団学習」、子ども自身が学習目標と進捗をチェックする「週間プログラム（週プロ）学習」を中核とする個別最適な学びを推進する「個別学習」を両輪とし、自主的児童会「独立国活動」や自主的課外クラブ活動「オープンタイム」などの「創造の活動」を加えて構成されている。 ■ 平成 23 年愛知県の小学校で初めてユネスコスクールに登録し、ESD カレンダーの活用や 2017 年からの SDGs 学習など、以降の ESD としての学校教育活動を積極的に推進している。 ◇ESD としての教育の展開 ■ 課内授業で学期ごと 1 単元採用を目標に実施されている「週間プログラム」（以下「週プロ」）は極めて特徴的な授業となっている。その基本的な考えは、子ども自身がその単元の学習計画と運営を自分の裁量で行うというものである。教員はそのために学校のオープン構造を活かした各種教材の空間配置、基本的な段階的進路を示すプリント（基本情報を保証するとともに、到達学習深度は複数用意されている）など工夫を凝らした学習環境を整備している。学習活動を実見したが、子どもたちは自分のプリントを選び、オープンスペースの教材を探しに行きプリントに必要な事項を記入していく。書いた結果は教員にチェックしてもらい、不備があれば助言をもらって再度調べ直す、という過程をとる。算数などはまとめて教員が基本的な方法について補足的に教えるという場も設定していた。 ■ 通常の座学形式は「教える」入力の仕事と進行管理を教員が行うが、すべての子どもの理解の速度や深度を教える側が完全に把握することは困難である。一方、週プロでは学習者本人が「学ぶ」作業と進行管理を行い教員は補助的に確認する形となっており、学習者が納得する形で学びをすすめることができる。いわば通常の座学を「インプットマネジメント型」とすれば、週プロは「アウトプットセルフチェック型」と呼ぶことができる。このような学習者自身が進行管理を含め自主的に「学ぶ」手法は動機づけの自己決定理論で仮定される 3 つの欲求のうち、「自立性」と「有能性」を強力に刺激することになり、子どもたちの積極的な活動に表れている。これらは教員の目線ではなく、子どもの目線で教育課程を構築する考えを徹底させた結果と考えられる。 ■ 緒川小学校では文科省の示す学習目標を踏まえ ESD で育てたい 3 つの力として「かかわる力」、「問い続ける力」、「行動に移す力」をあげているが、週プロを始め様々な学習活動はすべてここを目標としている。すなわちすべての学習活動が ESD となっているということもできる。 (本項は聞き取り担当者の観察と意見交換による考察)	

◇学習活動の成果

- 週プロは授業を準備するのは非常に労力がかかるが、子どもたちには大好評だという。教員が「この単元は週プロでやろうか」と提案すると子どもたちが大歓声を上げるそうで、いかに学習活動への動機づけ効果が高いかを示している。
- いわゆる「学力」という点では当校は中位とのことであるが、卒業生は中学や高校で各種活動のリーダーに立候補することが多いという。自立性や行動力を養う教育効果が表れていると考えられる。
- 卒業生の地元定着率が高く、子どもを当校に通わせたいという希望が多いという。当校の出身者が地域と様々な連携をもちつつ学習活動が展開されていることもあり、また小学校の教育方針に賛同している査証とも考えられる。

○ESD・SDGs の取組の課題

- 学校で ESD を展開するためには、行政（教育委員会）、校長の考え方次第と思われる。東浦町教育委員会の場合は当校に対して後押しがあったとのこと。ただ、他の学校に十分に横出し展開しているとは言えないようである。
- 学習指導要領に記載はあるが、抽象的で現場の教師が実践するきっかけとはなりえていない。教科書に記載があれば教師は教えるが、例えば「SDGs を 17 個覚えよう」といった極めて表層的なものになってしまい、本来の ESD とは言えない。
- ESD を実践するにはスタッフ、ロマン、カリキュラムが重要で、当校ではこれを教職員に徹底しているとのこと。
- 教員は忙しすぎて自由参加の ESD 研修では人は集まらないとのこと。新人研修の一部に取り入れるなど工夫が必要。

○ESD/SDGs の取組の今後の支援や期待

- 当校でも大学生や地域の方に来てもらっているが、環境ボランティアの出張授業などの支援があればありがたい。
- SDGs は 2030 年までなので、それ以降の社会を示す目標が必要。子どもサミットなどで現場から目標を作る活動などがあってもよいのではないか。

(8) 地域循環共生圏への協力、全国センターとの連携協力

- ESD 業務を実施するにあたっては、「地域循環共生圏」を実現する人づくりの促進にも資することを考慮しつつ取り組んだ。
- 全国センターの実施する会議に出席すると共に、必要な情報提供、資料作成等に協力し、ESD 推進ネットワークの活動状況調査等にも協力・対応した。
- 6 (3) ア①に示したとおり、全国センターの実施する会議に出席すると共に、必要な情報提供、資料作成等に協力した。また、ESD 推進ネットワークの活動状況調査等にも協力・対応した。
- また、第 2 回 ESD 活動支援運営企画委員会で「気候変動教育の進捗の可視化プロット様式」の事例として、中部地方 ESD 活動支援センターの学び合いプロジェクトの事例を紹介した。

